

現在、取り組んでいる新聞折り込み等による求人活動に加え、マッチングアプリ（デイワーク）や求人広告を活用した募集に取り組むことで、農家希望の雇用人数確保を図る。また、作業内容の動画を撮影し、作業紹介動画として、雇用した人材に向けての作業内容の動画を撮影することで、作業を始める前の説明等の簡素化を図り、取り組みやすい体系づくりを行う。雇用において、経営者は雇用者の勤怠管理や安全対策等が必要となるため、マッチングアプリの操作研修会に加え、労務管理能力向上のための研修会を開催し、資質向上を図る。労働力確保対策は重要な課題であるため、関係機関で役割を協議しながら、連携して継続した支援を行っていく。

事業実施主体構成員

JAながさき西海 させば広域かんきつ部会
JAながさき西海 いちご部会
JAながさき西海 西海の花連絡協議会

実績値（目標値）

・雇用人数(延べ)R6目標:400名(内訳:かんきつ 350名 いちご・花き 50名)
【R5年度実績】実人数：166名（無料職業紹介所43名、バイトアプリ123名）
・無料職業紹介所(かんきつ)充足率 R6目標:60%
【R5年度実績】活用希望作業員数 無料職業紹介所94名 確保作業員数66名 充足率70%
・バイトアプリ(かんきつ・いちご・花き)マッチング率 R6目標: 90%
【R5年度実績】バイトアプリ成立人数559名 マッチング率75%
・パッケージセンター充足率 R6目標: 95%
【R5年度実績】希望作業員数20名 確保作業員数18名（パッケージセンター） 充足率90%

令和5年度取組み内容

今年度の取組み内容
ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等） 【かんきつ部会】 令和4年6月に労働力確保対策のアンケートを実施し、規模拡大の意向については、拡大12%、現状維持60%、縮小5%、やめる2%、無回答21%となった。雇用方法については、知人友人39%、親戚28%、JA無料職業紹介所19%、シルバー人材センター4%、ハローワーク2%等であった。今後の収穫時の臨時雇用の意向については、増員40%、現状維持58%、減員2%であり、雇用労力の確保が求められている。 【いちご部会】 令和5年5月にいちご部会員60名へアンケートを実施し56名（93.3%）の回答となった。労力確保状況については、56名中39名が雇用を行っている。特に定植・マルチ。摘果作業での雇用が59%で大半を占めている。雇用形態については、親戚・友人知人が71%で、次いでシルバー人材センター18%となっている。今後の雇用の意向については、増員32%、維持59%、減少9%で、増員および維持では、地域の日本人の雇用確保を望まれている。 【花き類（菊類・アスチルベ）】 令和5年5月に菊類・アスチルベ生産者28名へアンケート実施し、26名（93%）から回答があった。労働力確保状況については、親戚・友人知人の雇用が約半数を占めている。臨時雇用の内容では定植時の雇用する生産者が41%と多く、更に増員したいと回答した生産者は12%で、定植に関し特に労力を要する作業と考えられる。そのため、今後も地域の日本人を雇いたいと意向が多く、デイワーク等の新しい支援についても実際に活用した生産者を通じて広がっていくとの見解である

今年度の取組み内容

イ 産地内での労働力確保・育成

- ・農業一日バイトアプリ「デイワーク」の利用について、かんきつ部会およびいちご・花き生産者への活用を推進するため、4月と9月にデイワーク研修会を開催した。9月の研修会では社会保険労務士による労務管理研修会も併せて開催した。
- ・デイワークのWEB広告は、11月にスマートフォンアプリのyahoo! japan、Instagram、Facebookに広告が出るようし、佐世保市を中心として隣接市町までのエリア限定で実施した。11月のWEB広告のクリック回数は12,583回あり、11月にデイワークに登録した求職者が45人、そのうち実際にみかん収穫やユーカリの出荷調整等で41人の労力を確保することが出来た。
- ・今年度はいちご・花き生産者に対しデイワークの活用の推進を図ったが、1名の花き生産者（かんきつとの複合経営）のみの利用にとどまった。
- ・今後は、いちご・花きでも利用農家数を増やしより多くの募集をかけていくとともに、周年募集をしていくことで、登録している作業員が年間通して作業を継続できるような体制づくりを図っていく。

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

- <他産地と連携した労働力確保>
- ・現在は、他産業との連携した活動はない

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

- ・デイワークのWEB広告は、11月にスマートフォンアプリのyahoo! japan、Instagram、Facebookに広告が出るようし、佐世保市を中心として隣接市町までのエリア限定で実施した。11月のWEB広告のクリック回数は12,583回あり、11月にデイワークに登録した求職者が45人、そのうち実際にみかん収穫やユーカリの出荷調整等で41人の労力を確保することが出来た。
- ・令和5年4月から令和6年1月末までのデイワーク就労者の内訳は、男女比は53：47、年齢構成は、40代が最も多く34%、次いで50代が23%、30代が19%となった。登録住所では、佐世保市が最も多く41%であった一方、長崎市が12%、県外が16%等となっており、近隣だけでなく遠方からも就労希望者が約わり30%を占めた。作業員として登録した人がどうやってデイワークを知ったのかというアンケートでは、インターネット広告が27%で最も多く、知人の紹介が23%、Instagram、Facebookが21%となっており、WEB広告を介した登録者数が多いことから広告の効果がみられた。求人募集を行い雇用した生産者8戸で、みかん収穫作業が主であったが、延べ559人のマッチングが成立した（マッチング率75%）

オ 農業の「働き方改革」への取組

・ 厳しい農業情勢のなか労力軽減を図るため関係機関と連携し、急速に発展しているスマート農業実践による作業軽減、また、無料職業紹介所の活用に加え、SNSによる労働力確保や特定技能外国人の活用に取り組むによる労働力支援にも取り組み、産地振興・拡大を図ることとしている。

・ 労働力確保対策としてシルバー人材や農福連携、人材派遣会社による日本人大学生派遣の活用に取り組んできたものの、十分な労働力を確保できていないことから、新たな取り組みが必要となっており、令和4年度より、マッチングアプリ（デイワーク）の活用、「株式会社エヌ」を活用したJAながさき西海の外国人特定技能実習生雇用に取り組む労働力確保を図っている。

本事業取組みにおける成果項目

・ 需要状況のためのアンケートの実施では、作業時期・内容によつての雇用を望まれており、特に地域の日本人の雇用要望が多いことが伺えた。

・ 本事業による令和5年度の取組みによつて、マッチングアプリ（デイワーク）の就労者希望者は増加傾向にあると思われる。このことは、WEB等で行った広告の影響もあり、農業分野においてもインターネットでの求職者が浸透している傾向にある。

令和4年度バイトアプリ成立人数 延べ236名
令和5年度バイトアプリ成立人数 延べ559名

・ 研修により様々な雇用形態での、生産者の雇用に対する労務管理に対し再確認へと繋がっており「雇用する側」としての意識醸成が出来て来ている。

次年度以降の取組み内容

◆WEB広告での就労希望者の雇用募集を行うが、応募が多い40歳代をターゲットにした応募方法を検討し、期間雇用につなげる。

◆広告チラシでは、求職者地域の調査等から、今後も佐世保市を中心とするが近隣地域への範囲拡大を行う。

◆農作業支援者の雇用確保に向け、品目ごとの支援リレー体制の構築に向け、生産部会間での協議会等の設置による周年雇用体制の確保に取り組む。